

東京都水道局では、これまで、主に高度経済成長期に急増した水道の需要に応じて、水源や施設の整備を行ってきた。

しかし、水源の脆弱性や水道事業運営による環境負荷など現在抱えている課題のほか、気候変動の拡大など将来的に水道事業への影響が懸念される要因などを考慮すると、今後の水源や施設の整備にあたっては、「将来起こりうるリスクに十分対応できる」ことが重要な要件となる。

一方、都の膨大な水道施設は間もなく一斉に更新時期を迎えることから、水道施設を再構築していく必要がある。

これらのことから、水道システム全体の安全度を向上させ、将来にわたって安定給水を確保していくことを目的に、首都東京にふさわしい水道施設の再構築に向けた基本構想を策定する。

将来の首都東京にふさわしい水道施設の再構築を考える会

現状

水源確保

- 保有水源630万m³/日のうち82万m³/日が課題を抱える水源
- 利根川・荒川水系の計画利水安全度は他地域よりも低い
- 近年の少雨傾向により水源の供給能力が既に約2割低下
- 地下水は、地盤沈下や水質の問題があるため、安定水源としての位置づけは困難

施設整備

- 大規模施設の一斉更新時期が間もなく到来
- 水道事業運営による環境負荷
- 膨大な水道施設の耐震化が必要

需要予測

- 現行の水道需要予測期間は10年程度
- 大規模施設の一斉更新に際し、水源や施設の整備・供用期間は数十年～100年以上にわたるため、長期的な需要の見通しが必要

将来想定されるリスク・課題

気候変動

環境負荷軽減要請の高まり

事故・災害の発生

経済動向、人口動態、
ライフスタイル等の変化

安定給水や水質の向上に
対する都民の関心の高まり

水道システム全体の安全度を考慮した 水道施設の再構築のあり方検討

水源確保・施設整備・水道需要等の観点から、水道システム全体の安全度向上に向けた水道施設の再構築のあり方を検討

水源

施設

需要

水道局

基本構想(案)

「考える会」からの提言を受け、水道施設の再構築に向けた基本構想(案)を作成し、公表

パブリックコメント

広く都民の意見を取り入れるため、局が作成した基本構想(案)について、パブリックコメントを実施

首都東京にふさわしい
水道施設の再構築に
向けた基本構想

提言